第２分科会【地歴・公民】

“知”の世界地図をつくろう
～探究心を深める授業づくりにおける高大接続の在り方～

［報告者］　小林　未来（京都府立東宇治高等学校 教諭）
［報告者］　神代　健彦（京都教育大学 教育学部 准教授）
［コーディネーター］　藤田　五樹（京都府教育委員会 高校教育課 指導主事）

京都教育大学「グローバル・スタディーズ」の一貫として、グローバル化の時代における価値観の探究を軸に、高校教員と大学教員が連携して、新たな視点からつくり上げる高校倫理の授業実践を報告した。その報告を通して、高校の探究から大学の研究へとつながる授業実践と探究活動のあり方について考えた。

概　略

本研究発表は、京都教育大学と東宇治高校で 2020 年度より実施している「グローバル・スタディーズ」の共同研究の取り組みとその成果について、紹介・解説するものである。「グローバル・スタディーズ」とは、2014 年度より京都教育大学と同附属学校園で進めてきた「グローバル人材育成プログラム」の一環であり、グローバル化する現代社会をよりよく生きる力を育む新しいカリキュラムや授業のあり方を提案している。東宇治高校との共同研究では、大学で開発したそのカリキュラムや授業づくりの知見を、地域の公立学校との協働でさらに深め、発展させていくことがねらいとされている。

初めに、小林氏から、当授業のねらい、授業内容、授業後の生徒の変容について報告がなされた。当授業のねらいは、世界における哲学の知の広がりを示す「“知” の世界地図」の協働作成を通して、生徒たちが人間としてのあり方や生き方についての見方・考え方を再構築し、改めて「私」を発見して表現することである。古今東西の幅広い「知」を協働作業で集積・発表することを通じて、多くの生徒たちの中で、自らの生き方の見つめ直しへつながったこと、倫理の授業が「学ぶ」ものではなく「考える」ものへと変容したこと、これまでには思いもかけなかった地域や存在にも哲学はあるのだ、という気付きにつながったことなどが報告された。

続いて、神代氏より、教材観を中心に当研究授業の解説がなされた。当授業では「グループ学習パック」としてさまざまな教材が準備されたが、このパックとは教科書の学びを超えて、事柄のダイナミックな理解が成立するように、市販の哲学史や宗教史の一般書・入門書を大量に準備して構成されている。その教材での学びを通じて、ヨーロッパ世界の知のダイナミックな展開を的確に捉えて表現した生徒の感想を例に挙げながら、当授業で見られた生徒の変容について報告がなされた。加えて、当連携を通じて、大学の「真性（オーセンティック）」な知を学べるという高校側のメリット、高校生の学びの実態を知ることで、学習者目線での学びのシークエンスを構築して、大学教育を再構成できるという大学側のメリットに触れ、高大連携から生じる高校教育

および大学教育の影響についても報告がなされた。

全体討論の内容

以下、グループセッションでの議題およびその報告である。

議題１：高大連携の具体的な取り組みの共有

報　告：・「ウィンターセッション」と称する、生徒たちが大学を訪問し、学びを深める取り組み

・様々な大学から大学教員を招き、学年全生徒を対象に、多数の講座を展開する取り組み

・「東京フィールドワーク」と称する、大学に進学した卒業生を高校生が訪ね、学びを深める取り組み

議題２：探究活動に求められる思考活動の質について

報　告：・調べ学習を経る中で生じる疑問を、深みのある「問い」へとつなげていくことで質が高められる。

・課題について、まずは個人で主体的に考え、その内容をグループで共有する。共有化する活動を通じて各個人が他者の考えとの違いに気付き、改めて自分の考えを見つめ直すことができる。その後にグループでの発表活動を取り組むことで、思考の質を高める一連の活動へとつなげられるのではないか。

到達点と今後の課題

本報告の取り組みは、単発的な高大連携の取り組みではなく、高校・大学双方がそれぞれの知見を駆使して授業をデザインし、生徒の変容へとつなげることを目的とした継続的取り組みである。取り組みを通じて高校側は、高校での学びの枠を超えて、大学の「真性（オーセンティック）」な知に触れる学びを生徒たちに提供できている。一方、大学側は高校生が学びを深める過程を目の当たりにすることで、大学教育、特に入学年次生への教育のあり方を再考することが可能となっている。こういったことは全てそこに学ぶ生徒・学生に還元されるメリットであり、本取り組みが効果的な高大連携につながっていることを示している。ここで得られた知見をいかにして他校、他大学へと広げていくかが今後の課題と言える。

スライド１

“知”の世界地図をつくろう
～探究心を深める授業づくりにおける
高大接続の在り方～

報告者　小林　未来
（京都府立東宇治高等学校）

スライド２

自己紹介

- 教員になり12年目、東宇治高校３年目
- 中学社会での採用
  （精華町立精華西中学校⇒府立洛北附属中学校⇒洛北高校
  ⇒東宇治高校（現在））
- 現在は、高校３年生の倫理と２年生の「総合的な探究の時間」を担当
- 総務企画部、弓道部顧問

スライド３

実践報告

1　授業の概要
2　授業の目標・ねらい
3　授業の展開について（３時間）
4　この授業の手ごたえ（生徒の感想より）
5　授業を終えて

スライド４

１　授業の概要

- 対象　京都府立東宇治高等学校
  ３年６組（特進コース）　倫理選択者　28名
- 日時　令和２年12月８日（火）３校時
  12月９日（水）２校時、３校時
- 題材　「“知”の世界地図をつくろう」

スライド５

２　授業の目標・ねらい

○「私」を表現してほしい！

- 既習事項をもとに「“知”の世界地図」を作成
  ⇒「人間とは？」を自ら問い直し、表現する。

つまり…

- 「人間としてのあり方・生き方についての見方・考え方」から、新たに「私とは？」という視点をもち、自己の探究活動を発展させる。

スライド６

２　授業の目標・ねらい

○「倫理」はムダな教科ではない！
「おもしろく」て「役に立つ」教科である！

〈前提〉
・12月までの授業　＝「古今東西の幅広い知的集積」
・協同学習

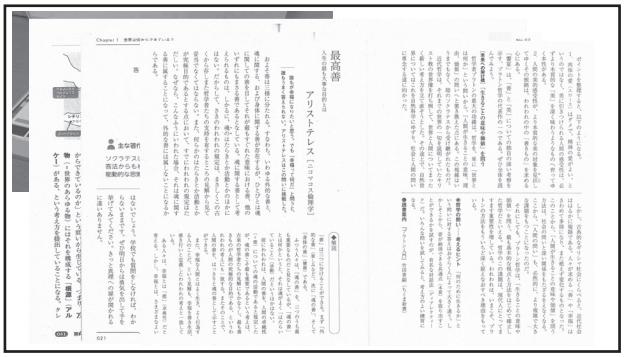
- 「新たな発見＝新たな“知”との出会い」＝「私」の発見
- 他者との関わりの中で「私」は生きている

スライド７

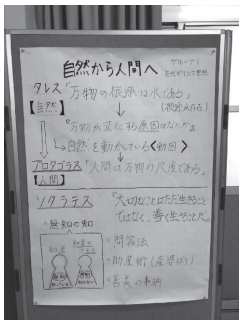
３　授業の展開について（３時間）

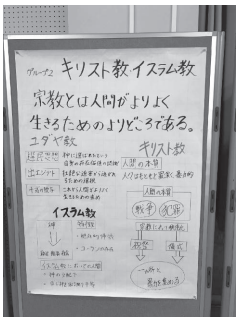
- １時間目　…グループ学習
  各時代の「人間とは？」の答えとなるプレゼンを行う準備をする
- ２時間目　…グループ発表・交流
  ６グループの発表
  キーワードを付箋に書き、白地図に貼る
- ３時間目　…担当者による授業
  ヨーロッパ中心の「人間とは？」の問いは不十分

スライド８

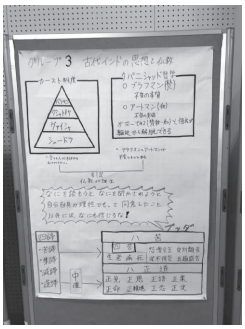


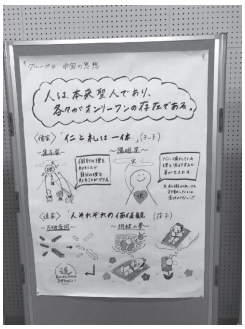
スライド９



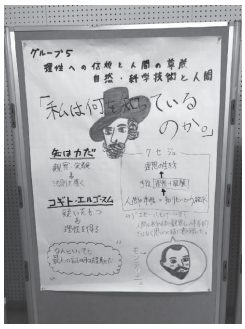


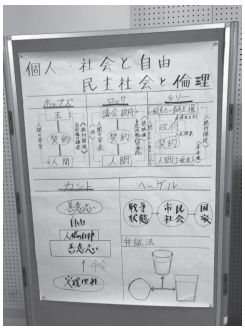
スライド 10



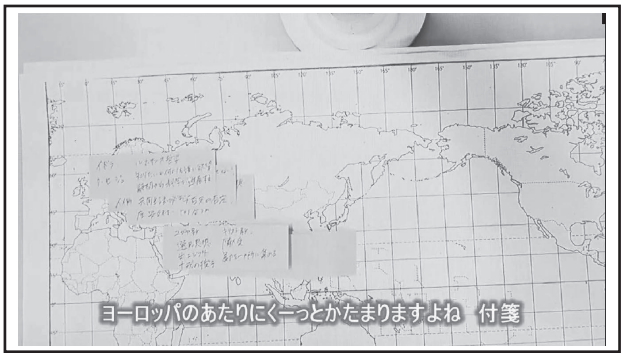


スライド 11





スライド 12



スライド 13

３時間目　…担当者による授業

- グループ発表のまとめ
- 生徒の「“知”の世界地図」を活用しての授業

世界地図の「空白」をうめよう！

- 東宇治高校の「校歌」から考える

スライド 14

男は人間として定義され、
女は女性として定義される。

シモーヌ・ド・ボーヴォワール

スライド 15

スライド 16

東宇治高校校歌

作詞　深井隆三
作曲　中原昭哉

一
朝日輝く　緑の丘は
古き伝え　織りなして
美しき白亜の学舎に
若人は理想に燃えつつ
豊かなる日々　重ねつつ
たくましく　未来に生きん
あ　東宇治　わが母校
あ

二
夕日映える　宇治の流れは
常に人の世　うつしゆく
学舎に　希望の鐘響き
若人は　真理を求め
遥かなる道　拓きつつ
望みある　未来を築かん
あ　東宇治　わが母校
あ

スライド 17

４　この授業の手ごたえ（生徒の感想より）

- 「自分とはどのような存在なのか改めて考えるようになった。これから入試を迎えるが、大学に合格することが目的ではなく、その後、**どのような生き方をするのかが重要**と考えた」（男子生徒）
- 「昔の偉かった人の考えを学ぶのが倫理の授業ではなく、そこから**「私のこと」として、昔の人の言葉を参考に考えるのが倫理の授業**であると思った」（男子生徒）
- 「オーストラリアや女性など、哲学（宗教も）は世界にあるのだと、**言われてみれば、“そうだなぁ”**と気づいた」（女子生徒）
- 「いつも聞いている**校歌が新鮮に聞こえた**」（女子生徒）

スライド 18

５　授業を終えて

〈生徒の様子〉
- 「私」を少しでも出せた　…かな
  →グループ学習、発表の様子
  →感想

〈授業者〉
- 生徒への「負荷」のかけ方のさじ加減
  →高大連携により、生徒分析とアドバイスを受けられた
- 次年度への課題　…生徒の「表現方法」の検討

スライド 19

最後に

- 今年度の高大連携は、**「小論文」**にチャレンジ！

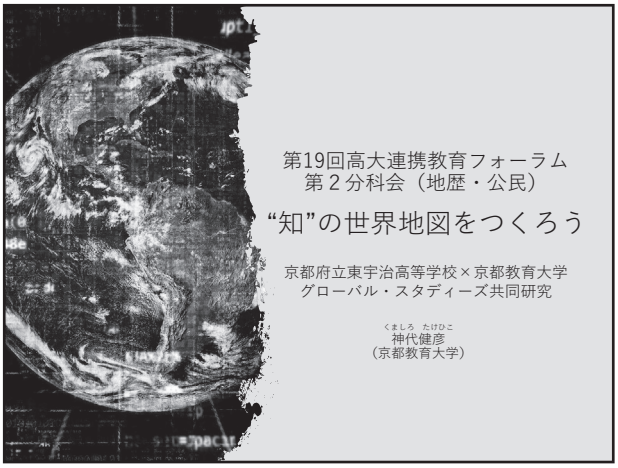
テーマ

「哲学」と「宗教」はどちらが人間を「幸せ」にするか？

・12月に2000字にまとめる
・今は、このテーマに関するネタ探し中…
→毎時間のコメントカード　「知識の箱」

神代　健彦（京都教育大学 教育学部 准教授）

スライド１



スライド２

報告内容

1 グローバル・スタディーズとは
2 研究授業の紹介・解説
（教材観を中心に）
3 高大連携の観点から
（学びの連続性、動機づけ）

スライド３

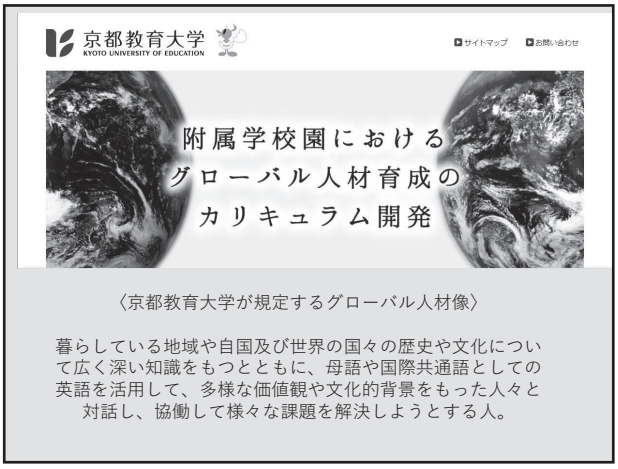
1 グローバル・スタディーズとは

スライド４

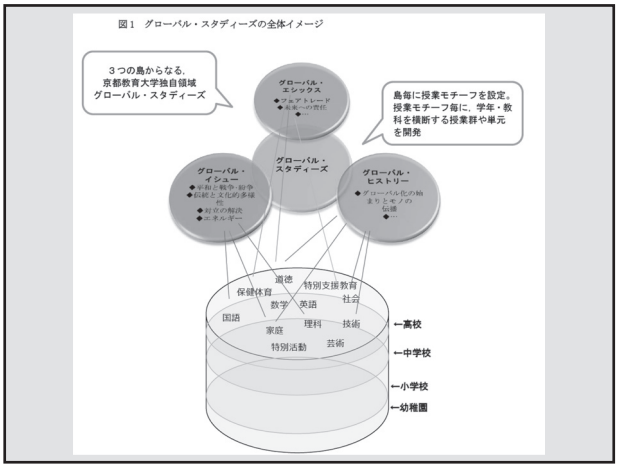
グローバル・スタディーズ（GS）とは？

- 2014年度より京都教育大学と同附属学校園で進めてきた「グローバル人材育成プログラム」の一環
- グローバル化する現代社会をよりよく生きる力を育む新しいカリキュラムや授業の在り方を提案

スライド５



スライド６



スライド 7

東宇治高校
×
京都教育大学
GS

- 大学で開発したそのカリキュラムや授業づくりの知見を地域の公立学校との協働でさらに深め発展させていくことをねらいとした共同研究事業（2020年～）。
- 今回は共同研究のパートナーとして地元の高等学校の協力を得られたことで、地域に根ざした高大連携の取り組みという意義をもつに至った。

スライド 8

授業の概要

対象　第３学年　28名

日時　令和２年12月８日（火）
　　３校時（10：45～11：30）
　　令和２年12月９日（水）
　　２校時（９：50～10：35）
　　３校時（10：45～11：30）

場所　アカデミックルーム
　　（東宇治高校２棟１階）

題材　「“知”の世界地図をつくろう」

スライド 9

2 研究授業の紹介・解説
（教材観を中心に）

スライド 10

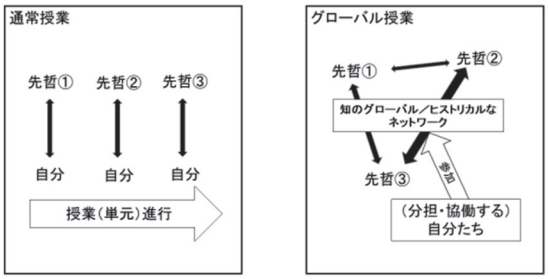
教材観
―教科書の学びを超える―

検定教科書は知識・理解の面で優れた教材である反面、思想史の知識を時系列順（いわゆる「列伝」風）に組織したものであり、本研究がめざす、

- 事柄のグローバルでダイナミックな理解
- 価値葛藤の体験

という点で弱い。

スライド 11



スライド 12

教材観
―教科書の学びを超える―

- 本研究授業では、市販の哲学史や宗教史の一般書・入門書を大量に準備し、多種多様な資料群のなかから事柄のダイナミックな理解が自然と成立するよう配慮した

□ 市販の一般書・入門書は、必ずしも検定教科書のような体系性を備えてはいない反面、「教えるための書物」である教科書とは違う、「独学するための書物」
□ 他方で、市販の一般書・入門書は内容的に玉石混交という側面もある

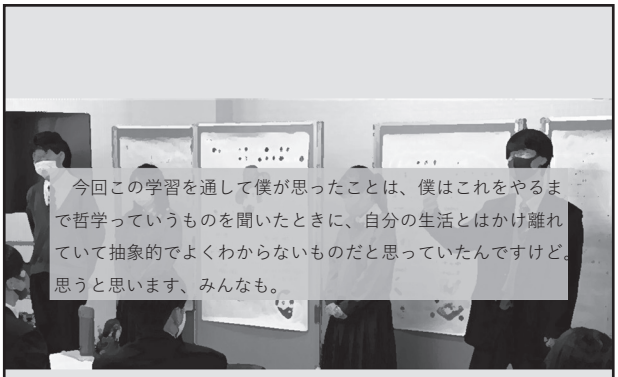
◆ 準備段階である程度信頼性の高い資料を「グループ学習パック」として整理し、それを配布

スライド 13

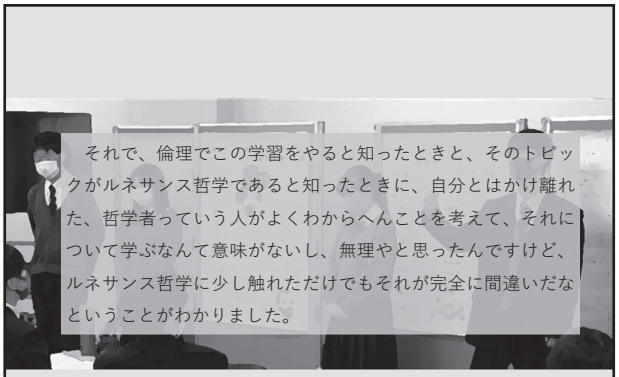
スライド 14

- バッキンガム、 W. 『哲学大図鑑 三省堂大図鑑シリーズ』小須田健訳、三省堂、2012年.
- ドーリング・キンダースリー社編『宗教学大図鑑 三省堂大図鑑シリーズ』豊島実和ほか訳、三省堂、2015年
- ジャクソン、T. 『図鑑 哲学 人生を変える100の話』屋代菜海訳、ニュートンプレス、2020年.
- ケリー、P. 『政治学大図鑑 三省堂大図鑑シリーズ』豊島実和訳、三省堂、2014年.
- 納富信留ほか編『よくわかる哲学・思想 (やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ)』ミネルヴァ書房、2019年.
- 小川 仁志『図解 使える哲学』KADOKAWA、2014年.
- 田中正人『哲学用語図鑑』プレジデント社、2015年.
- 田中正人『続・哲学用語図鑑ー中国・日本・英米(分析哲学)編』プレジデント社、2017年.
- 山竹伸二『本当にわかる哲学』日本実業出版社、2011年.

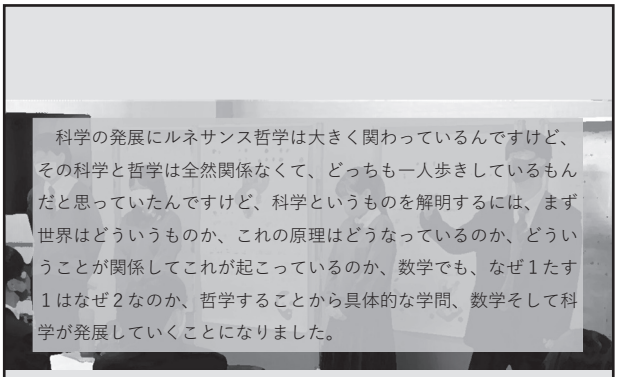
スライド 15



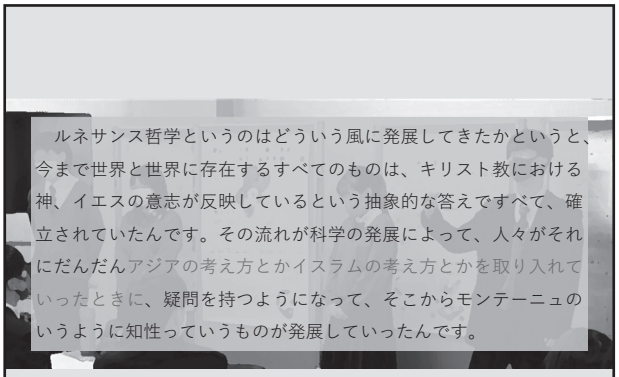
スライド 16



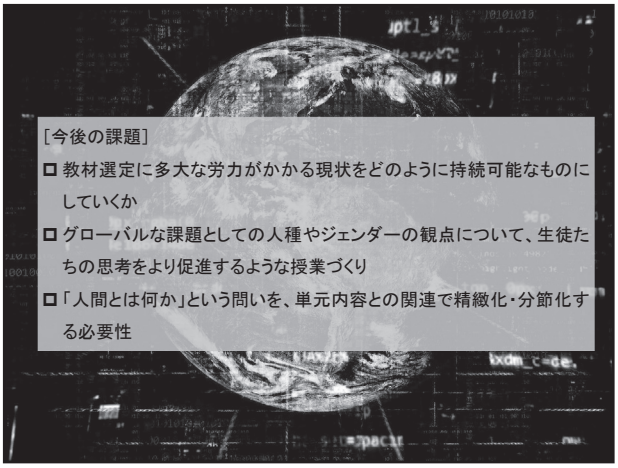
スライド 17



スライド 18



スライド 19



スライド 20

3 高大連携の観点から
（学びの連続性、動機づけ）

スライド 21

GS（グローバル・スタディーズ）事業の（思わぬ）メリット

GS事業が高校教育に与えるインパクト

◆ 大学の「真正（オーセンティック）」な知を高校へ

◆ 大学で求められる学びの形を高校生へ伝える

その事業のなかで大学に還流する

教育実践知

スライド 22

事例
「教育の理念と歴史」

◆ 教職の基礎科目

◆ 大学1回生の必修科目

◆ 1クラス約80人ほど

◆ 教育の歴史や哲学などを中心とした教育学入門

スライド 23

第1回 ガイダンス

第2回 教育の基本概念(1)
教育とはなにかをどう語るか

第3回 教育の基本概念(2)
教育をなりたたせるもの

第4回 教育の思想(プレ)
西洋教育思想概観

□教育学入門パート

第5回 教育の思想(1)
古代ギリシャの教育思想

第6回 教育の思想(2)
ヨーロッパにおけるキリスト教と教育

第7回 教育の思想(3)
ヨーロッパ近代教育思想

第8回 教育の思想(4)
新しい近代教育思想

□思想パート

第9回 教育の歴史(1)
人間形成の近世と近代

第10回 教育の歴史(2)
日本における近代学校教育の始まり

第11回 教育の歴史(3)
新教育ブームから戦時下教育へ

第12回 教育の歴史(4)
日本国憲法と教育基本法

□歴史パート

第13回 現代日本の教育課題(1)
（最新の時事問題について）

第14回 現代日本の教育課題(2)
（最新の時事問題について）

第15回 現代日本の教育課題(3)
（最新の時事問題について）

□教育学応用パート

スライド 24

問題は？

➢ 高校での既習事項と無関係に「大学で学ぶべきこと」を順に教える授業

➢ ただただ「新しい学びに慣れろ」という指導

スライド 25

第1回　ガイダンス
第2回　思想で〈教育学する〉(1)
［講義］学びの思想　―ソクラテス・プラトン
第3回　思想で〈教育学する〉(2)
［講義］教えの思想　―コメニウス
第4回　思想で〈教育学する〉(3)
［講義］子どもの思想　―ルソー
第5回　思想で〈教育学する〉(4)
［講義］学校の思想　―デューイ

□思想パート
（高校倫理／世界史と接続）

第6回　歴史で〈教育学する〉(1)
［講義］前近代日本の教育
第7回　歴史で〈教育学する〉(2)
［講義］近代学校の始まり
第8回　中間レポート
第9回　歴史で〈教育学する〉(3)
［講義］教育家族の誕生
第10回　歴史で〈教育学する〉(4)
［講義］教育の戦時と戦後
第11回　歴史で〈教育学する〉(5)
［講義］戦後社会と教育

□歴史パート
（高校日本史と接続）

第12回　現代を〈教育学する〉(1)
［講義］教育学の諸概念
第13回　現代を〈教育学する〉(2)
［講義］能力主義の功罪
第14回　現代を〈教育学する〉(3)
［講義］教育の公共性とはなにか
第15回　現代を〈教育学する〉(4)
［講義］テクノロジーと人間の未来

□教育学入門パート
（大学の学び）

スライド 26

学生の感想から

「世界史、倫理で習ったアテナイの頃の哲学者の教育論が現代でも活かせるということに驚きました」

「高校時代に日本史の授業で学んだ内容が多くあって、スムーズに理解することが出来ました」

「今回の授業は日本の歴史に関する教育だったので、今までの知識と重ね合わせると分かりやすい内容だった。子返しの図は日本人特有の伝説があってとても特徴的だと感じた」

スライド 27

新しいシークエンスのメリット

- 高校教育（と受験）で得た知識の「リフレーミング」
- 「あの時学んだことは、ここにつながっていたのか」
- 知っている知識を「活用」することで、新しいことがわかる・できる！

スライド 28

新しいシークエンスのメリット

「真正（オーセンティック）」な学びの動機

- □ 達成価値（わかる・できるからもっと面白くなる）
- □ 内発的価値（内容そのものが面白い）

スライド 29

高校生を「知っている」ことのメリット

- 大学に何を求めているのか
- 生活認識、興味関心
- 広義のレディネス

スライド 30

高校生を「知っている」ことのメリット

「本質的な問い」のチューニング

- 高校までの学びの意味は？
- 受験ってなんだったのか？
- 学校って？
- 仕事に就くって？
- 恋愛、結婚、出産、子育てと自分の人生

スライド 31

大学教育の
リフレクション

- 教養教育としての大学
- 職業（教職）教育としての大学
- 青年期教育としての大学教育

スライド 32

高大連携が導く
大学教育の
実践知

- 学習者目線での学修シークエンスの構築
- そのことによる真正な動機付け
- 大学教育そのものの再定義